

2017年(平成29年)2月3日<金曜日>

業界・行政ニュース

岐大が小鹿トンネル実地試験

レーダーで欠陥探査

非接触レーダーなどを搭載した車両を走らせながら老朽化したトンネルの内部欠陥を点検する技術の実地試験が本県市の小鹿トンネルで行われ、その効果が検証された。交通を規制せずに点検でき、作業も低減できる技術として期待は大きい。

パシフィックコンサルタンツ(東京都千代田区)など5社の共同研究グループが行った。

新技術では、壁面から3m離れていても内部を探査できるレーダーや、トンネル壁面の変形を計測するレーザ、壁面のひび割れや変状を連続撮影するカメラが搭載された車両を走らせることで解析、診断ができる。その結果を3D可視化技術でデータベース化もできる。レーダー・レーザ・画像を組み合わせた健全度診断は日本で初めての試み。

診断による異常箇所のみを技術者が打音検査などで調べることで、点検作業の低減、効率化が図れるため打音検査の代替・補充技術として活用できると期待されている。



非接触レーダーなどを搭載した車両